5. 書　評

「富の未来」（上・下）

著者：A・トフラー　翻訳：山岡洋一
出版社：講談社
価格：各1,995円



今回書評で紹介している『富の未来』は、世界を席巻しつつある「富」の革命的変化について、その実相を見事なまでに明快に描き出している。このことを知らずに起業家教育は行い得ない。教育においても、第二の波の工業化全盛時代の教育が未だに行われており、第三の波の知識経済時代の教育が今始まろうとしている。

1　時間・空間・知識

様々な変化の根底に、時間、空間、知識の３つの要因があり劇的に変化しつつある。

2　金銭経済・非金銭経済

金銭経済だけで経済は成り立っていない。実は金銭経済と同等の規模がある非金銭経済があり、これが拡大している。

3　新たなパラダイムとスピード

新たなパラダイムに適応する際の企業のスピードが速い。ＮＰＯや家族も結構適応している。一方で、教育は工業化社会の考え方を今も持続してる。法律はほとんど適応できていない。

4　科学とイノベーション

科学がイノベーションの大きな鍵となる。宇宙への広がりやナノ技術の世界への広がりが、何らかの契機になる。特にバイオ技術（遺伝

子組み換え）は貧しい国々の主要産業である第一の波時代の農業を変革し飢えから救済できる可能性を秘めている。

5　中国の複線戦略

中国は複線開発政策を実施する中で時間の短縮と活動空間の拡大を図り、ローテク産業の開発だけでなく、第２の波時代の工業化を脱却して第三の波のハイテク産業等を併行して構築するのに懸命である。

6　生産消費者

生産消費者とは、生産と消費の両面を持つことを意味している。それがインターネットで加速され新たな市場を作り出し、生産者と消費者の境目がなくなり関係が大きく変わろうとしている。

これらのことより、第二の波時代の発想の教育改革ではなく第三の波の知識経済時代の考え方に基づく教育改革が必要であり、時間と資金の無駄にならない教育が必要であることをこの本では多方面から説明している。この第三の波時代の教育の一つに起業家教育があると考える。

兵庫県立小野高等学校　教頭　南谷雄司